

芳賀の史跡めぐり

-17-

金龍山実相院福德寺

金龍山実相院福德寺は、小坂子十字路を北上するとすぐに案内板があり、その南側に駐車場、駐車場の南に本堂があります。今の場所は字川白田ですが、以前は別の場所でありました。芳賀村史によると、開創の年月は明らかではないが、小坂子村字中川、今田正右衛門の屋敷にあり実相院と称していました。この寺に小林善右衛門の子息が入り、現在地に寺を移しました。寺号も金龍山実相院福德寺と改めました。寛文八（一六六八）年とありますから、江戸時代初期になります。この方が第一世住職、文諦坊宥清で、現在は第二十八世（また

は三十一世）だそうです。福德寺のご本尊は千手観音菩薩。本尊は坐像で、脇仏に薬師如来坐像、不動明王立像、聖観世音菩薩坐像、十一面観音菩薩立像があるそうですが、残念ながら拝観していません。真言宗豊山派に属し、檀家は二百戸を超えるそうです。元の境内は千二百坪もありましたが、現在は三百坪余り。本堂の南側も広く、周りはいきれいに整備されています。芳賀村史によれば再建当時は宮城村石城寺の末寺でしたが、村同士の争いがあり、その余波を受けて石城寺を離れ、江戸の護国寺の末寺になったそうですが、その際は村



金龍山実相院福德寺

民がお金を出し合い、小判四十両を得て前橋城主・酒井雅楽頭に調停をお願いし、代表がたびたび江戸まで出向いたと記載されています。争いがあつたのが延宝年間（一六七三―八二）で、許可が下りたのが正徳五（一七一五）年とすると、かなりの年数がかかっていました。その後は江戸末期まで隆盛を極めたとあります。

福德寺の回廊南東の角には文久三（一七九五）年製の梵鐘があります。こ

の梵鐘は太平洋戦争の際、金属供出に出されましたが、勝沢町住民の機転で再び福德寺に帰ることができたというエピソードがあるそうです。

小坂子町では毎年八月に地藏尊祭りを開催し、その際に福德寺の島田住職に子供たちの健やかな成長を祈願していただいています。今年はコロナ禍で中止となっていました。

生涯学習奨励員

小見 耕一



福德寺の梵鐘



位置図

9月の主な行事予定

9月14日(月)頃から 国勢調査

